

◎◎コロナバス州立大学学生が来桐（報告）◎◎

3月4日から8日まで、桐生市の国際姉妹都市アメリカジョージア州コロナバス市にあるコロナバス州立大学美術学部の学生等8人（うち引率教官2人）が、日本の陶芸文化及び異文化を学ぶため桐生に滞在しました。このプログラムは、桐生を会場とした同大の日本芸術プログラムとして平成17年度にスタートし、桐生和紙・水墨画・陶芸・木版画・織物につく6回目の開催でした。期間中は、市内の陶芸家の工房を訪問や市内見学、うどん作り体験などを行いました。滞在最終日の夜には、当学生等がコロナバスで製作した陶芸作品の作品展示会と交流会を市民文化会館で開催し、作品を見ながら交流を深めることができました。



↑陶芸家籠橋氏工房訪問

←うどん作り

交流会会場にて↓



◎◎ピエラ市への高校生派遣事業が無事終了しました（報告）◎◎

3月28日（月）から4月4日（月）まで、姉妹都市イタリアピエラ市との交流事業の一環として桐生市高校生8人をピエラ市に派遣しました。滞在中はピエラ市のご協力で全期間ホームステイでの滞在となり、市役所表敬訪問、ホスト子弟の高校授業体験、市内見学、市郊外の世界遺産オーロラ見学、ミラノ見学など盛りだくさんの内容でした。そこで、参加された皆さんからいただいた感想の一部をご紹介します。

- ◎ 私たちを本物の家族よりも親切に接してくれたホストファミリー、関わってくれた全ての人に感謝。
- ◎ ピエラ市は桐生と町並みが似ていてたくさんの織物工場があり、ピエラ市と桐生市がなぜ姉妹都市なのかの気がした。自分の英語が未熟だと感じ、もっと英語が話せるようになりたいと思った。
- ◎ ピエラの市長さんやピエラの方々には地震を心配してくれて、市の会議では黙祷もささげてくれ、国と国の繋がりも感じられた。
- ◎ ホームステイで文化の違いや建物や食べ物についてなど、本当にたくさんの事が学べ、たくさんの良い思い出ができた。この様な行事をたくさんの人にも是非体験してもらいたい。
- ◎ この出会いを本当に大切にしていきたい。この事業に参加できたことでより外国への思いも強くなったし、これからの私の人生を変える大きな出来事であり、転機であったと考えている。
- ◎ 「相手ともっと通じ合いたい」という気持ちがやっぱり一番大切な気持ちで、人間同士の交流の第一歩だと思った。



ピエラ市郊外のブルチーナ公園にて



ピエラ市の市長・副市長と記念撮影